

2024（令和 6）年度自己評価書

2025（令和 7）年 3 月 28 日

宇部さゆり幼稚園

1 自己評価の概要

- (1) 実施時期 2024（令和 6）年 12 月
- (2) 実施者 教諭 8 名（うち常勤 5 名、非常勤 3 名）
- (3) 実施結果の概要

I「保育の計画性」、II「保育の在り方、園児への対応」、III「保育者としての能力や良識・適性」、IV「保護者への対応」、V「地域の自然や社会とのかかわり」、VI「研修と研究」の 6 分野に分け、さらに分野ごとに、個別の評価項目を定めて実施した。

最も評価が高かったのは、III「保育者としての能力や良識・適性」、次いでII「保育の在り方、園児への対応」、IV「保護者への対応」となっている。

これをみると、保育の内容や園児・保護者への対応はある程度できていると評価したものが多かった。

逆に、評価が低かったのは、VI「研修と研究」、I「保育の計画性」、V「地域の自然や社会とのかかわり」であった。

特に、「保育の計画性」の低さについては、多くの課題が見受けられ、今後さらなる検証と改善が求められる。また「研修と研究」についても、研究や研修への取組が十分でないと評価したものが多く見られ、研修体制や内容の見直し等の改善が必要である。

(4) 分野ごとの検証結果と改善策

I 「保育の計画性」についての検証結果及び改善策

園の教育理念・教育方針の理解、幼稚園教育要領の理解はできているものの、その方針や要領の内容について、園長や教職員が話し合えていない現状がある。また、教育課程の編成にも、教職員と園長の連携が不十分といった傾向がみられる。園長のリーダーシップと教員相互の連携が今後の課題となっている。

II 「保育の在り方、園児への対応」についての検証結果及び改善策

いずれの教員も概ねできていると評価している。教員同士の協力・連携において、
「全員がすべての園児についてある程度理解するよう様々な工夫をしている」という項目の評価が低かったことから、今後さらなる教員相互の協力・連携が求められる。

Ⅲ 「保育者としての能力や良識・適性」についての検証結果及び改善策

いずれの教員も概ねできていると評価している。ただし、「幼稚園教諭としての専門知識や技能を身に付けているか」という項目では、非常勤教諭の評価が低い傾向にあることから、非常勤教員の専門性の向上に向けた取組の強化が今後の課題となっている。

Ⅳ 「保護者への対応」についての検証結果及び改善策

いずれの教員も概ねできていると評価している。ただし、「保護者の協力が必要な場合、具体的な協力の在り方について保護者と話し合っている」という項目の評価が低いことから、今後、後援会等を通じて保護者との話し合いを十分に行っていく必要がある。

Ⅴ 「地域の自然や社会との関わり」についての検証結果及び改善策

「地域開放や子育て支援の具体的な形や内容を理解している」という項目の評価の割合が低かった。今後十分な理解が得られるよう、協議の場の設置や研修の実施が必要である。

Ⅵ 「研修と研究」についての検証結果及び改善策

「教諭としての専門性に係る研修が十分」という項目の評価の割合が低く、資質向上のための研修計画の策定と、計画に基づく実践が必要である。

